

「上方八ヶ国手限取計留」(二) : 江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析

その他のタイトル	Kamigata Hachikakoku Tegiri Torihakarai Tome (2) : Transcription and Analysis of Historical Sources about Kamigata Daikan and Otsu Daikan in the Latter Half of the Edo Period
著者	小倉 宗
雑誌名	關西大學文學論集
巻	71
号	1-2
ページ	A61-A99
発行年	2021-09-18
URL	http://doi.org/10.32286/00025439

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——

小 倉 宗

第一章 史料の紹介(承前)

〔17〕
〔朱書〕
〔上八〕

支配所内ニ行倒死人有之節之儀、他支配・他領之ものニ候共、全病死ニ無紛、疑敷筋無之分者、立会檢使ニ不及、所役人^〆其もの之在所親類・村役人江為掛合、存寄相糺候上、其所ニ葬候共任望候積可被取計候、右者是迄心得方区々之儀も有之ニ付、牧野備前守殿江伺之上申達候、尤聊ニ而も疵所等有之候歟、心障之品有之候ハ、立会檢使之積可被相心得候、以上

〔朱書〕
〔文化八〕

未正月

(永田正道、公事方勅定奉行)

永 備後守

(肥田頼常、勝手方同)

肥 豊後守

(松平信行、公事方同)

松 兵庫頭

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

小笠原長幸、勝手方同
小伊勢守
(柳生久通、同)
柳主膳正

【18】

都而堂上方江直掛合之儀ニ付寛政四子年相達置候処、其後区々取計も有之哉ニ相見候、依之以來摂家・宮・門跡・堂上方等之家領江引合候変死又者疵付檢使、其外末派・修験等全法儀而已ニ抱り、其筋江直掛合ニ而可埒明筋并呼出・其外取計「扱」ニ付直掛合之儀者、是迄之通被取計、勿論前文之趣ニ而も事柄入組候儀者、伝奏衆江被申立、祈願所ニ被差加、「寄」^(挿入) 附物等有之候儀者、末派・末寺之儀ニ候而も、元来宗旨・法儀等之筋被取扱候与者誤違ひ、自用之儀ニ有之候間、右体之筋ニ抱候儀者、不依何事都而直掛合者不被致、伝奏衆江被申立、夫御附江達之上向々江掛合候筈、今般其筋江被仰渡候付、右之趣差含、区々不相成様可被取計候、依之申達候、以上

〔文政九戊〕

二月廿八日

曾我助麿、公事方勘定奉行
曾豊後守
(石川忠房、同)
石主水正

惣廻状

追而、東陣之面々者、留守居之もの今早々可申遣候、以上

〔本文、寛政卅四〕^(訂正) 子年ニ御達等之留無之、官家之部ニ委細記有之

【19】

(朱書)

〔天明六年京東町奉行丸毛和泉守方江差出候江州馬場村水死人之儀二付、以来江州村々変死人・行倒・湖上水死取極之趣書取〕

(政良)

〔京・大坂御用記〕

(朱書)

(正範、大津代官)

(朱書・訂正) (天明六年)

石原清左衛門御代官所江州滋賀郡馬場村ニ而当村「午」二月廿三日水死人有之候処、何方之ものニ候哉難相知旨村

(勘定奉行)

方今訴出候付、檢使差遣候所、弥名前も不相知候ニ付仮埋申付、其段江戸表江清左衛門相届置候所、同年三月京

都土手町正面下ル町河内屋庄兵衛与申もの右村方江尋ニ罷越、様子相尋候ニ付、其節之始末委細村方之もの今申聞

候処、庄兵衛妻ニ無相違与存候間、京都江罷帰、右之趣御役所江御届申上「候上」清左衛門役所江可申出旨申之、

(京都町奉行所)

(朱書・挿入)

罷帰候由、村方今住進申出候ニ付、右庄兵衛并町内之もの罷出候ハ、死骸為見届可申旨、其節清左衛門今書付を以

申上置候、然ル処同年四月朔日右死骸被下願として清左衛門方江罷出度段当御役所江願出候付、御代官所変死之も

(京都町奉行所)

の之儀ニ付、安永七戌年馬場村湖水之沖ニ水死人有之、其節取計方之儀、於西御役所被仰渡候儀も有之候処、此度

手限ニ取計候儀者近格も御座候哉之儀、猶又御尋被成候処、右者、安永十丑年御代官所村々取計之儀江戸表今御差

図有之、則其節御役所江も御届申置候ニ付、其以来右之振合を以取計候儀、左之通御座候

一、都而御代官所村々并地先等ニ而变死有之節者、檢使差遣、安永十丑年二月江戸表今被仰渡候趣を以手限ニ取計、

見分吟味之趣江戸表江申上候儀ニ御座候

一、湖辺御代官所村々并地先湖中ニ而水死人又者流寄・其外变死有之節者、檢使差遣、吟味之趣江戸表江申上候儀ニ

御座候

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

但、最初令人主相知、京都町方之ものニ相極候得者、御役所江申上候、人主私領之ものニ御座候歟、又何共之もの共人主不相知分ハ、手限ニ取計、江戸表江申上候

一、湖上船ニ而之変死ニ而御座候得者、湖上并御料・私領村々地先ニ而も彦根御領分之外者、檢使を以吟味之趣御役所江申上候儀ニ御座候

一、湖上并湖辺私領村々地先ニ而船ニ不抱変死有之節者、前々分清左衛門方ニ而者差構不申候

一、彦根御領分村々地先ニ而破船・難船并水死等有之節ハ、彦根彦「表」ニ而取計有之、清左衛門方分者檢使等差遣申候、然れ共御年貢米積候船破船・難船等有之節者、清左衛門方分檢使差遣、見分吟味仕候積御座候

但、彦根御領分江者檢使差遣不申段、安永元辰年二月書付を以御役所江申上置候

右之通書取差出候処、右書面之内変死人者ケ様与申相分候趣駢与無御座候ニ付、江戸表江其節引合置候儀も有之候哉之段御尋ニ付、則其砌変死人取計方之儀、江戸表江左之趣相伺候処、如此被仰渡候

安永十五年三月、御料所村々諸出入并人殺・火附・盜賊吟味・其外違変有之節取計方之儀去ル子年江戸表分被仰渡候付、変死人有之節之取計方、江戸表江清左衛門より相伺候処、変死人之儀「も」江戸表江申上候積被仰渡候ニ付、(安永九)

其以來右之趣を以取計申候

一、御料所村方諸出入并人殺・火附・盜賊吟味・其外違変取計方之儀、去ル丑年江戸表分御書付を以被仰渡候ニ付、(安永一〇)
変死人有之節取計方之儀、同年三月清左衛門分江戸表江相伺候趣書拔

一、御代官所并御預所江州村々変死人有之節者、吟味之上他領之もの掛り合有之者勿論、支配内之もの計ニ而も一件吟味書京都御奉行所江差出来候、河州・撰州村々変死人有之節者、吟味之上支配内之もの計ニ候得者、江戸表江申上、他領掛り合者勿論、死骸取片付相願候親類之内他領之もの加り候得者、大坂町奉行所江差出来候、然ル処此度

被仰渡候御書付ケ条之内変死人之儀無之候ニ付相伺候旨江戸表江申上候処、人殺・疵付・口論・変死人ニ不限、盜賊一件逐吟味、相伺可申候、右之内変死人之類、糺之上外ニ子細無之分者、不及伺死骸取片付申付、其旨相届候様可仕旨被仰渡候

右之通書面を以申上候処、前段馬場村水死人之儀、名前も不相知候故、手限ニ仮埋申付、江戸表江相届置候事ニ付、此度者当地之もの右死骸清左衛門御役所江願出候様被仰渡候得共、以来之儀区々ニ不相成様御取極可被成置旨被仰渡候ニ付、以来之儀左北連(江正)「二申」上候

一、御代官所并御預所江州村々変死人又者行倒もの有之、村方今訴出候節、手代検使差遣、吟味之趣江戸表江申上候、右変死人何方之ものニ候哉、人主不相知候ハ、死骸仮埋申付、江戸表江御届申上、若後日京都町方之ものニ候段、右由縁之もの尋来候而死骸無相違旨ニ候ハ、其節早速御役所江清左衛門今申立候様可仕候、勿論最初今名前相知、京都町方之ものニ候得者、是又御役所江申立候様可仕候

一、湖上船ニ而之変死ニ御座候得者、前々仕来之通御役所江申上、御差図次第ニ取計申候

右之趣申上候様清左衛門申付候、以上

(正範、大津代官)
石原清左衛門手代

(天明六年)
午六月
「京詰」後藤順右衛門

「右書取之趣ハ、三月廿七日・四月 日・五月 日」(挿入)「差出」置候ケ条ニ候処、一紙ニ認候様東公事方木村九郎兵衛談(京都東町奉行所与力)并付、下書差越候付、品々意味違等添削いたし、其段申達、六月廿七日九郎兵衛江差出

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方面・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

【20】

〔天明八申年京都西町奉行山崎大隅守尋二付直二持參、差出候書取〕
(朱書) (正導)

変死人(朱書・挿入)一等」取計方之儀申上候書付

都而御代官所村々并地先二而変死人等有之節者、檢使差遣、御代官手限二取計、吟味之趣江戶表江可申上旨、安永十五年被仰渡之趣を以江州御代官所村々并大津町・湖上船方変死人取計来候覺

(勅定奉行)

一、江州御代官所村々并地先湖辺二而変死人有之節者、檢使差遣、見分吟味之趣江戶表江申上候

但、変死人私領之もの二御座候歟、又者何方之もの共人主不相知分ハ、吟味之趣江戶表江申上候、若京都住之もの二御座候得者、其段御役所江も申上候

(京都町奉行所)

一、大津町并一地先(朱書・挿入)湖辺等「二而」之変死人者、檢使差遣、見分吟味之趣所司代江申上候

(朱書・挿入)

但、人主相知、京都住居之もの二相極候得者、是又御役所江も其段申上候儀二御座候

一、私支配船二而之変死人者、湖上并御料・私領村々地先湖辺二而も彦根領分之外者、檢使差遣、見分吟味之次第御役所江申上、御差図之趣を以取計申候

但、湖上并私領村々地先湖辺二而も船二不抱変死人者、私方々差構不申候

一、私支配之船、彦根領分村々地先湖辺二而者「之」破船・難船并水死人者、安永元辰年以来彦根表々取計有之、私

(記正)

方々ハ檢使差出不申、然れ共御年貢米積候船破船・難船有之節者、私方々も檢使差遣候積御座候

但、彦根領分之船、私御代官所村々地先湖辺二而変死人御座候節者、檢使差遣、見分吟味之趣江戶表江申上、私領村々地先湖辺二而御座候節者、私方二而差構不申積相心得罷在候

右御尋二付申上候、以上

(正頼、大津代官)

(天明八年)
申五月

石原清左衛門

【21】

(朱書)

「京都町方之もの変死人手限取計候例」

京都西奉行所三浦伊勢守殿江出ス
(町) (ママ) (正子)

(朱書)
「公事方御届留」

私御代官所江州滋賀郡松本村之内片原町湖水浜先二年齡廿五六才計之男溺死罷在候段、去月廿九日訴出候付、早速手代差遣、見分吟味為仕候処、人主不相知候付、死骸仮埋為致、相果居候始末・年齡・着服等委細ニ相認、往還端ニ六ヶ月建札申付置候、然ル処京都西堀川綾小路下ル町大倉屋了恵同家弟次兵衛与申もの、先頃分痢症之様子ニ而折々取のほセ、不揃之儀も有之候付、心付養生為致置候処、先月廿六日夕方不斗家出いたし、罷帰不申候付、心当之所々相尋罷在候内右村浜先ニ水死人有之段噂承候処、年齡・其外着用類等茂次兵衛ニ似寄候間、(大津)当津江罷越、死骸見届、次兵衛ニ相違無御座候ハ、其段私役所江相願、死骸引取度段御役所江御届申上罷出候旨、昨二日夕方松本村江罷越、村役人立会、死骸見届候処、弥次兵衛ニ相違無御座候付右死骸引取度旨申出候間、怪敷筋も無御座候ハ、死骸為相渡候様可仕与奉存候、依之此段申上候、以上

(朱書)
「寛政八年」

辰六月三日

(正通、大津代官)
石原庄三郎

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

(朱書)

「此書取、京西町奉行三浦伊勢守御役所当番与力野田鉄藏江差出置、翌四日朝京都詰之もの罷出候処、目付方熊倉恵(正子)

(政良、京都東町奉行)

和泉守与力木村九郎兵衛取扱候馬場村水死女京都之もの二候処手限二而引渡候例書・湖中変事取計方後藤順右衛門(定意)の書取差出候写・江戸御届写等持参いたし候付、京詰森本権藏(天津代官手代)の猶又恵助為心得為見置候処、四日夕七時頃呼出有之、

(勘定奉行)

権藏罷出候処、鉄藏を以次兵衛死骸、了恵願之通町方之もの罷出候ハ、承届可相渡旨、繁太被帰候節権藏の御用状来」

【22】

(朱書) (公事方)

「右同断御届留」

私御代官所江州滋賀郡松本村浜先二而去月廿九日溺死人有之、檢使差遣、見分吟味為仕候処、怪敷筋無御座、致捨身候二無相違相見候得共、人主不相知候付、仮埋申渡、右始末建札為致置候処、右水死人、京西堀川綾小路下ル町大倉屋了恵弟次兵衛与申者去月廿六日致家出候付、右風聞承り罷越、死骸見届候処、相違無御座候間右死骸請取度旨、右了恵并町役人私役所江書付を以申出候付、右之段先達而申上候処、昨四日願之通死骸引渡可遣旨御達御座候付、其段申渡、昨四日夜於松本村右村役人立会、死骸為相渡申候、依之此段申上候、以上

〔寛政八年〕

(朱書)

辰六月五日

石原庄三郎

(正通、天津代官)

(朱書)

〔此届不差出相済候由、京詰森本権藏の申越〕

(天津代官手代)

江州松本村地内水死人之儀ニ付申上候書付

〔宋書〕(公筆)
「右同断御届留」

私御代官所江州滋賀郡松本村地内片原町浜先二年齡廿四五才ニ相見候男人水相果居候段、去月廿九日訴出候付、為見分手代差遣、吟味仕候処、同村百姓彦助、廿九日早朝右浜江水汲ニ罷出候処、水中ニ死骸沈有之候間相驚、村役人江為相知、訴出候儀之旨申之候付、死骸為引揚、得与相改候処、木綿豎島単物を着、花色たら帯をメ、白木綿下帯いたし、手拭を冠り、左右之袂ニ割れ瓦を入相果罷在、惣身疵所無之、全く前夜右場所江罷越、身投いたし候儀与存候旨、見付人・村役人一同申之、自滅ニ無相違相見候旨手代見届、外々怪敷儀も無之候得共、何方之ものニ候哉、人主不知候付、死骸者仮埋為致、建札申付候、然ル処京都堀川綾小路下ル町大倉屋了惠弟次兵衛与申もの、(寛政八年)当辰式拾歳ニ相成り、先頃より癩症ニ而折々取昇候間、心付薬用為致置候処、去月廿六日夕方与風罷出、行衛相知不申候付、所々相尋候内右溺死人之噂及承り、次兵衛ニ似寄候間、私役所江相願、同人ニ無相違候ハ、死骸請取度段、(京都)同所町奉行所江申立罷越候旨ニ而、当月二日右了惠差添、町役人一同見届之儀願出候ニ付、右始末町奉行所江も申達し、死骸為見届候処、弥次兵衛ニ無紛、持病差発り、右場所迄罷越、致自滅候ニ無相違、外ニ怪敷義無之上者、村方之ものとも・其外江対し聊申分無之、(宋書、挿入)「死骸請取度旨書付差出候付、願之通」死骸引渡せ、猶亦町奉行所へも其段申達候、依之御届申上候、以上

〔寛政八年〕

辰六月

(正通、大津代官)
石原庄三郎

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

【24】

〔大津町并御代官所村内ニ而京都町方之もの・其外他^(マ)之もの変死いたし候節取計方、京都東町奉行森川越前守江差出書取〕
(朱書)

〔上八〕
(朱書)

大津町并御代官所村内ニ而京都町方之もの・其外他^(マ)之もの変死いたし候節取計方、左之通御座候

一、大津町内ニ而変死人有之候節者、京都町方之ものニ而茂檢使差遣、見分吟味之上死骸引取又者取片付承届、其段所司代江御届申上来、御奉行所江申上候儀者無御座候処、御直支配人別之もの之儀ニ付、為念去年中御奉行所江も一ト通り申上候儀ニ御座候

一、右同断、他支配・他領之もの者、檢使差遣、死骸引取又者取片付申付、其段所司代江御届申上候

一、江州御代官所村内ニ而変死人有之候節者、檢使差遣、見分吟味之上、京都町方之もの者其趣申上、御奉行所江差出申候、尤何方之ものとも不相知、死骸仮埋、建札申付候分者、江戶表江御届差出候付、追而京都町方之もの之由相知、親類共罷出候節者、其段御奉行所江申上、死骸為見届、引渡遣、猶又其旨も江戶表江御届差出申候

但、本文、変死人、最初今京都之もの之由訴出候節も、見分之もの差遣、其趣御奉行所江申上、差出申候、其外之儀者本文之通取計申候

一、右同断、他支配・他領之もの者、檢使差遣、死骸引取又者取片付申付、其段江戶表江御届差出申候
右之通御座候、以上

〔文化五〕
(朱書)

辰六月

石原庄三郎
(正通、大津代官)

〔(朱書)右者、六月(マ)日右奉行所当番所与力田中佐次郎江差出候処、元極仕来之訳添書ニいたし候様申聞候付、猶又左之書取兼〔差〕出〕

〔25〕

大津町ニ而行倒・首縊・其外変死人之類者、御奉行所御支配中之御仕来ニ准取計可申哉之旨、明和九辰年土(土井利里、所司代)大炊頭殿江奉伺候処、伺之通被仰渡候、且江州御代官所村方変死人之儀者、天明元丑年上方八ヶ国御料所村々取計方相極候以來別紙之通取計来申候、依之添書を以申上候、以上

〔(朱書)文化五〕

辰六月

石原庄三郎
(正通、大津代官)

〔(朱書)右書取、田中佐次郎江差出候処、森川越前守被請〔取候旨申聞〕候段、同人申達〕
(俊尹、同奉行)
(墨書、挿入)

〔26〕

〔(朱書)和州桃俣村常八変死一件、支配御代官矢島藤藏(五糸)の檢使差遣、死骸仮埋申付置候を無沙汰ニ奈良奉行の檢使差遣、死骸為掘出、見分いたし候儀、御勘定奉行衆(正徳)の奈良奉行井上丹波守江掛合返書〕

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

(朱書)
「上八」

(五条代官)

御切紙致拜見候、然者矢島藤藏御代官所和州宇陀郡桃俣村常八変死いたし候一件取計方之儀二付、先般御報旁被仰

聞、猶又御再報得御意候処、御承知被成候、然ル処池田仙九郎(恒季、元五条代官)先役江御問合濟之儀者、其以前河尻(春之、元五条代官)甚五郎(元勘定奉行)も問

合有之、其外和州御代官所・御預所等取計向をも見合、附札いたし遣候儀之処、仙九郎者勿論、甚五郎も御先役

方江申聞候義無之、尤此度之一件者、安永之度上方八ヶ国之内御料所村方取計之儀二付取極候ヶ条与聊差別も有之

候得共、甚五郎等先役江問合濟之趣を以仕来与心得候而者、自然安永之度御取極候節之御心得方二も相響、御料

所一体之取極振二齟齬いたし、尤小堀主税儀、安永之度伺濟之趣二而者、陣屋附牢屋無之、差支も有之候間、牢屋

取立候迄者仕来通為取計、其段向々江同人(上方奉行)の相逢、今以同様取計、其外木村惣左衛門(京都大仏前町代官)も牢屋無之、右者人殺・疵付・

火附・盜賊等類吟味差支候分者、各様江伺二不及、其向々之奉行所江為御差出候仕来故、右兩人二限候而者別段之

取計二有之候得共、一般ニ主税・惣左衛門兩人之取扱振同様与申筋二者無之、多羅尾靱負心得方者既ニ外御料所取

計同様二有之候間、矢島藤藏儀も仙九郎引繼之書面二不抱、以後靱負同様可相心得旨御申渡可被成旨、依之仙九郎

の先役江問合濟之書面江靱負心得下ケ札いたし候趣、一覽与して被遣、右二而存寄無之候哉否御承知被成度様、右

書面御写巻册落手、致承知候、則多羅尾靱負心得下ケ札之趣致一覽候処、

一、本文、出所不知もの支配所内二而前同様相果候節、他支配・他領引合無之分者勿論、縦令引合有之候共一卜通懸

合迄之儀二候得者、其筋江懸合呼出相札、一件江戸表江申上来、若他支配・他領江懸り怪敷子細有之分者、見分吟

味、一件奈良奉行江差出、勿論最初の他支配・他領之者仕業二相分有之分者、見分(不)之もの等差遣、安永之度被仰渡

候趣を以村方(奈良奉行所)の右奉行所江為致出訴候積、且本文・但書、乞食鉢之もの茂右同様取計候心得茂御座候、右之通二御

座候ハ、当御役所仕来二相振候儀も無之、其外下ケ札之趣者今般御引合一件ヶ条外之例二候得共、是以差支之筋者

相見不申候間、矢鳥藤藏江已後鞞負同様可相心得旨被仰渡候而も存寄無御座候

一、常八死骸見分之儀、同人者藤藏御代官所之もの二而、及殺害候もの者他所之もの二候共逃去、手懸無之上者、藤藏方ニ而檢使之もの差遣、親類・村役人共為立会、死骸取片付申付候者都而御料所一般之取計ニ而、縦令其後及殺害候ものを何れ之奉行所等ニ而召捕候共、疵所等之論儀も無之、再見分ニ不及分、右殺害ニ逢候もの之疵所等檢使之趣者、其御代官所・御預所役人江問合、否見分之趣を以伺等いたし候而も差支も有之間敷儀与御心得候儀共、先般御報ニ得御意候通、奥留村用水池ニ見馴非人水死いたし、右死骸御預所ニおゐて取片付申付候後再見分相成候次第者、右死人高安村善四郎倅新助之由追而風聞有之、善四郎も訴出候ニ付、倅無相違哉否同人江為見候訳を以再見分差遣有之候儀者御心得被成候、左候得者、右者別段之儀ニ而、何方ニ茂有之候取計与御心得被成候、左も無之分者、是迄再見分差遣候儀ニ候哉、左候而者、先般も被仰聞候通支配御代官之見分更ニ無詮事ニ成行、其上藤藏方江通達も無之組(奈良奉行所協力、同心)之もの遣し、常八死骸堀出し、再見分等取計有之候様ニ而者、御料所一昧之御取締ニも抱候間、猶勘弁之上、以来御代官所・御預所人別之もの其地元ニ而檢使之始末、御代官又者御預所役人江懸合之上事柄相分候儀者、改而死骸堀出し、再見分ニ不及積取計候様御心得候儀ニ候、此段御懸合被及候旨致承知候、以来者御書面之通取計候様可致候、御別紙者御写ニ付留置申候、右為御答如斯御座候、以上

〔宋書〕
〔文政九〕

戊九月四日

井上丹波守印
(正章、奈良奉行)

村垣淡路守様
(定行、勝手方勘定奉行)

石川主水正様
(忠房、公筆方同)

遠山左衛門尉様
(景實、勝手方同)

〔上方八ヶ国手限取計留〕(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

〔27〕
〔宋書〕
〔上八〕

池田仙九郎(伯季、五家代官)の奈良奉行江間合濟書面江多羅尾鞆負心得方下ケ札いたし候書付(氏純、信樂代官)

変死
行倒死人有之節取計方書付写
同煩

拙者支配所内ニ而同国并他国之他支配・他領之もの共変死・行倒死有之候節、并支配所内之もの右同様之儀有之候節他支配・他国之ものニ懸り合有之節之儀、其外見馴非人変死・行倒等有之候節取計方心得之趣、左之通御座候

変死人之部

一、大和国者勿論、余国共他支配・他国(領)之もの拙者支配所(所)内ニ而水死・縊死者勿論、其外都而変死有之候節、其地所之村役人(奈長)の拙者方江相届候上其御奉行所江為訴可申候間、一件御奉行所ニおゐて御取計之事

〔宋書〕
〔氏純、信樂代官〕
●多羅尾鞆負下ケ札

本文、他支配・他領之者支配所内ニ而水死・縊死・其外変死等有之、其身者「与」相果候ニ無紛相見、支配所内之もの者懸り合迄之儀ニ候共、本文之通取計候積、其余人數「殺」・口論井・疵付・違変有之節取計方之儀井付(朱書、訂正)「者」、安永之度被仰渡候趣を以取計来申候

一、出所不知もの拙者支配所内ニ而前文同様之趣意ニ而相果候節も、其地所之村役人ハ拙者方江相届候上其御奉行所江為訴可申候間、一件於御奉行所ニ御取計之事

但、乞食体之ものニ而も本文同様御奉行所之御取計之事

〔朱書〕
右同断

本文、出所不知もの支配所内ニ而前同様相果候節、他支配・他領引合無之分者勿論、縦令引合有之候共一ト通懸

合迄之儀ニ候得者、其筋へ懸合、呼出相糺、一件江戸表江申上来、若他支配・他領江懸り怪敷子細有之分者、見

分吟味、一件奈良奉行所江差出、勿論最初ハ他支配・他領之もの仕業ニ相分り有之分等者、見分之もの不差遣、

安永之度被仰渡候趣を以村方右奉行所江出訴為致候積、且本文・但書、乞食体之ものも右同様取計候心得ニ御

座候

但、伏見・京・大坂・堺・奈良奉行直支配之もの吟味懸り〔挿入〕有之候もの、怪敷子細之有無ニ不抱、其村方

ハ奈良奉行江差出候積ニ御座候

一、拙者支配所内ニ而も寺院・社人并修験・山伏・陰陽師等之内上訴ニ罷出候身柄之もの者、水死・縊死・其外都而

之変死有之節者、其村役人ハ拙者方江相届候上御奉行所江為訴可申候間、一体〔朱書・訂正〕御奉行所ニおゐて御取計之事

〔朱書〕
右同断

本文、支配所寺院・社人・修験・山伏・陰陽師等一支配内ニ而水死・縊死・其外都而変死有之節、他支配・他領

引合無之分者勿論之儀、縦令引合有之候共懸合有之候共〔朱書・訂正〕一ト通り〕懸り合迄之儀ニ候得者、其筋江懸合呼出、

手限吟味之上江戸表江申上、若他支配・他領江懸り怪敷子細有之分者、前書〔訂正〕条〕之通取計候心得ニ御座候

但右同断〔朱書・訂正〕書、前下ケ札同断〕

〔上方八ヶ国手限取計留〕（二）

——江戸中後期の上方面・大津代官に関する史料の紹介と分析——（小倉）

一、拙者支配所村方之者一支配内ニ而前書同様之趣意ニ而相果候節、手限取計者勿論之儀ニ候処、若他支配・他領之ものニ懸り合有之節者、譬者右相果候儀ニ付申分有無之存念尋候様成引合而已之儀者、当国・他国之無差別、他支配・他国(領)ニ懸り合有之候共、其筋支配・領主・地頭江懸合之上拙者方手限ニ可取計候得共、尋而已ニ而不相濟、怪敷子細等有之、他支配・他領之もの江吟味懸候分者、見分吟味、一件其御奉行所江御引渡可申、且又村役人ハ最初訴之砌、他支配・他領之ものニ懸り合有之、吟味可相懸儀分り有之分者、拙者方ハ見分不差遣、早々御奉行所江為訴可申候間、一件御奉行所之御取計之事

但、本文、懸り合之もの之内伏見・京・大坂・奈良・堺奉行所直支配町方之者并一支配内ニ候共寺院・社人等江吟味懸候類者、御奉行所江差出、一件御奉行所ニおゐて御取計之事

(朱書)
「右同断」

本文、支配所之内村方之もの一支配内ニ而前条同様之儀ニ付(訂正)「而」相果候節取計方之儀も、前条下ケ札同様之儀ニ御座候

但書、前下ケ札同断

一、拙者支配所村方ニ而見馴非人前条(朱書・訂正)「書」同様之趣意ニ而相果候節者、手限ニ可取計処、若他支配・他領之もの懸り合有之候節者、尋而已ニ而相濟候分者前条同様之趣を以手限ニ可取計候得共、尋而已ニ而不相濟、怪敷子細等有之、他支配・他領之ものニ吟味懸り候分者、一件御奉行所江御引渡可申候、尤右ニ付、最初村役人訴之節々他支配・他領之もの江吟味可相懸(押入)「候義」分り有之分者、前同様取計之事

(朱書)
「右同断」

本文、見馴非人前条同様之儀ニ而相果候節取計方之儀者、是亦前条之趣ニ准し取計候心得ニ御座候、右見馴非人

之儀者其所一般之唱ニ而、常々乞食いたし、野合等ニ打臥シ、年久敷罷在候無宿之ものを見馴非人与唱來候儀ニ御座候

但書、前下ケ札同断

行倒死
人之部

同 煩

一、他国之もの拙者支配所内ニ而行倒有之節、全病死ニ無紛、何国ニ而相果候共其所ニ葬候様寺院或者村役人・親類等之儘成書付所持有之分者勿論、書付無之候共病死ニ無紛、引取人有之、外ニ怪敷儀も不相聞候得者、其筋支配・領主・地頭江懸合、先方諸親類・其外共申聞〔分〕無之、死骸引取度旨右支配・領主・地頭申來候分者、拙者方手限ニ可取計、乍然怪敷子細有之歟、亦者怪敷子細無之共寺院・社人・其外京・伏見・大坂・堺奉行所直支配町方之もの等者、前書同様之往來手形所持有之分者、拙者手限ニ取計、書付所持無之歟、所持有之候而も相果候節者其所ニ葬候様之書面無之分者、御奉行所江為訴、一件御奉行所御取計之事

但、本文、行倒煩居候分も勿論手限取計之積、乍然寺院・社人并伏見・京・大坂・堺奉行所直支配町方之もの等者、病人之嫌〔前註〕「願」ニ寄候而者、宿送等之儀迄者拙者方ニ而可取計候得共、若品ニ寄右向々奉行所江懸合之上其親類之もの等呼寄申さてハ不相成節者、村方其御奉行所江為訴可申候間、御奉行所ニおゐて御取計之事等

一、書面、寺院・社人并伏見・京・其外奉行所直支配町方之者等之内往來手形所持無之もの、若急病ニ而行倒、一向言舌も不相分節者、薬用之上、「其」〔朱書・挿入〕村役人其早々先方江其段申遣、先方之もの罷越、煩人引取度旨村役人江申談候旨ニ而、其段右行倒候地所之村役人申出候ハ、相对次第ニ為致可申積、併廻国体之類者、右体之病体ニ

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方面・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

而も先方江及懸合、薬用介抱等〔訂正〕「之」手当為致置可申積候事

〔朱書〕
● 右同断

本文、行倒、全病死ニ無紛、尤右之もの往来手形等も不致所持、存命中国所・名前等申聞候分者勿論、縦令往来手形所持いたし、相果候節其所ニ葬呉候様之文言有之候共、遠近之模様ニ寄死骸者仮埋いたし置、其村方々先方之村役人亦者私方々先方之支配・領主・地頭江右始末を幸便又者時宜ニ寄態飛脚を以及懸合、死骸引取候儀歟、亦者取置呉候様申越候分者、其通ニ為取計、右所持「者贖」〔訂正〕「者贖」〔朱書・再訂正〕之往来手形等ニ而其所之ものニ無之旨申越候分者、素々無宿之積取計、建札等者不仕、尤右之趣者両様共江戸表江申上來候儀ニ而、社人・出家・本文奉行所直支配町方之ものニ而も外吟味懸り怪敷子細無之分者、右之通手限ニ取計候心得ニ有之、若他支配・他領江懸り怪敷子細有之分者、右直支配之ものニ不抱、都而奈良奉行江差出、最初々怪敷子細相分有之分者、其時宜ニ寄村方々直ニ右奉行所江為訴候心得ニ御座候

但、本文、煩人之儀、社人・出家・伏見・京・大坂・堺奉行所直支配ニ不抱、都而煩人〔訂正〕「之」村送之儀相願

候節者、其段其所之村役人々私方江為訴、始末相糺、差図之上村送ニ為取計、且煩人々故郷之親類等呼寄候様相願候歟、左も無之候而者〔訂正〕「与も」〔訂正〕早速為相知、呼寄不申候而者難相成節者、其村方々先方之村方江為懸合、

亦者其筋〔朱書・傍注〕「二寄」私々支配・領主・地頭江懸合および、親類・村役人等相越、引取度旨申之、子細も無之上〔朱書・傍注〕「者」其通為取計候積、若引取人も無之もの者、快氣いたし候迄村方ニ而療用申渡候儀ニ御

座候

一、行倒病人等有之節者、往来手形有無不抱并何方之者ニ有之候共、早速医師相懸、介抱等手拔無之様手当為致候儀ニ而、其所之村方ニ而薬用介抱不念之訳も有之候ハ、別段及吟味候積、若何等他支配・他領江引合、怪敷

子細有之分者、奈良奉行江差出候心得ニ御座候

一、出所不知もの拙者支配所内ニ而行倒相果候節、全病死ニ而怪敷子細無之候得者、死骸仮埋いたし置、人相・年齢・恰好并相果居候始末・月日等巨細ニ認、村外往還端杯ニ建札いたし置、六ヶ月見合、尋來候ものも無之候得者、仮埋之俣土葬ニ取置可申旨申渡、拙者手限ニ取計候事

但、乞食体之者、本文同様手限取計候事

(朱書)
● 「右同断」

本文、出所不知もの相果候節取計方之儀者、但書共本文之通取計、其段江戸表江申上來候

一、和州内他支配・他領之もの拙者支配所内ニ而行倒煩并同死等有之節、右行倒候地所之村役人(挿入)方拙者方江訴出候ハ、往來手形所持有無之儀承札、往來手形所持有之分者手限取計、所持無之分者「煩中ハ」一式拙者方ニ而取計、薬用・其外都而之取計方等閑無之様可申付「置」(挿入)候得共、相果候節者早々其御奉行所江為訴可申候、尤相果候節村役人拙者方江相届候砌、万一往來手形所持有無不分明之申立「二」(挿入)候ハ、手附・手代差遣、相札候上、右手形「所持」無之ニ決候ハ、早々村役人(挿入)方其御奉行所江為訴可申候間、一件於御奉行所ニ御取計之事

但、寺院・社人并南都町方之ものニ而も本文同様之取計之積、乍然石之類者、病人之嫌「願」(訂正)ニ寄候而者宿送等之儀迄者拙者方ニ而可取計候得共、若其親類之もの呼出候様之儀有之節者、村方「分」(挿入)其御奉行所江為訴可申候間、於御奉行所ニ御取計之積、且右三ヶ条行倒死之儀ニ付若怪敷子細有之候節者、往來手形所持有無ニ不抱其奉行所江差出可申事

一、書面、寺院・社人并奈良町方之もの、若急病北行働「体」(朱書・訂正)「二而」(挿入)「行倒」(訂正)一向言舌も不相分節者、前書「六」(訂正)ヶ条目之下ヶ札同様取計之事

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

〔宋書〕
右同断

本文、和州内之もの支配所内ニ而行倒煩并相果候節取計方之儀、但書共前書〔六〕^{〔訂正〕}ケ条目下ケ札同様取計候心得
二御座候

一、見馴非人行倒死之儀者手限ニ可取計処、若怪敷子細有之、他支配・他領之ものニ懸合有之節者、尋一卜通之儀者
前五ケ条目同様之趣を以手限ニ可取計候得共、尋而已ニ而不相濟、他支配・他領之もの江吟味掛候分者、当国・他

国^{〔宋書・挿入〕}之無差別其御奉行所江差出可申候間、一件「於」御奉行所ニ御取計之事

〔宋書〕
右同断

本文、見馴非人相果候節、全病死ニ無紛候ハ、死骸取捨申渡、若他支配・他領之ものニ吟味懸り有之分者、前五ケ
条目下ケ札之通取計候積ニ御座候

一、拙者支配所村方之もの一ト支配内ニ而行倒煩者勿論、行倒死共手限ニ取計、右ニ付怪敷筋相聞、他支配・他領之
もの懸り合有之節者、前条同様之趣を以取計、他支配・他領之ものニ吟味懸候分者、当国・他国之もの井^{〔訂正〕}「之」無
差別其御奉行所江差出可申候間、一件御奉行所ニおゐて御取計之事

但、本文、行倒死懸り合ニ伏見・京・大坂・奈良・堺奉行所直支配町方之もの并一支配内ニ候而も寺院・社人等
江吟味懸候類、其御奉行所江差出、一件御奉行所ニおゐて御取計之事

〔宋書〕
右同断

本文、支配所村方之もの一支配内ニ而煩相果候而も他支配・他領江懸り怪敷子細無^{〔訂正〕}「有」之分者、本文同様取計
候積ニ御座候

但書・本文、寺院・社人ニ吟味懸り有之候而も、双方一ト連^{〔訂正〕}「支」配之^{〔傍注〕}「本ノヤ」儀ニ而寺法・宗法ニ抱候

儀も無之候ハ、手限吟味之上江戸表江申上候積ニ御座候

一、前ケ条之内都而拙者手限ニ取計候分者「(朱書・訂正)」者、江戸「(朱書・再訂正)」表江「(傍注)」相届候書面其俣ニ写取、月限

ニ其御奉行所江進達之事

〔朱書〕右同断

本文、手限ニ取計候分、江戸表江「(挿入)」之伺・届写差出来不申候

右之通取極置、尤場所替等之節者跡支配江申送候様可仕積ニ御座候、以上

文化元子年十一月

池田仙九郎

岩瀬加賀守殿

右者、私御代官所大和国ニ而変死・行倒・其外共取計方、先前支配池田仙九郎(但季、元五交代官)奈良奉行所江差出候書付江、当時取

計方之儀下ケ札ニ而申上候様御達ニ付、夫々下ケ札を以申上候、以上

〔朱書〕文政九

戌六月

多羅尾靱負

〔28〕

〔朱書〕上八

御請

一、今般矢鳥藤蔵様御代官所和州宇陀郡桃俣村百姓常八変死ニ付檢使之儀ニ付奈良御奉行所江御問合之書面江、多羅

〔五交代官〕「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

尾鞠負様御心得方下ケ札有之候間、已來大和国之儀者右御書面之趣相心得候様被 仰渡、承知奉畏候、右之趣銘々

御代官江可申聞候、右為御請申上候、以上

〔文政九〕
石原清左衛門手代

戊十月十二日 武井左右平印

〔29〕

〔上八〕

以 剪紙啓上仕候、然者拙者御代官所泉州大鳥郡湊村石津屋五兵衛借家尼ケ崎屋佐助元同居弟當時無宿新七と申もの、同村字東口田中二相果居候段、先月十二日訴出候付、手代差遣、見分吟味為仕候処、頭中数ケ所疵有之、他之仕業と相見候付吟味仕候得共、何もの之仕業とも差当不相知候付、死骸仮埋申付、此上精々承合、相手手掛有之次第早々可訴出旨申付置候、然ル処同十五日御奉行所^(塲)為檢使御組中被差遣候付、拙者手代檢使之上仮埋申付置候儀二付、一応拙者方江相届、差図請候上御檢使可請旨村役人共申立候得共、取用無^(之)、死骸為堀起^(掘)、御組之衆再見分有之候旨、村役人届□差出申候、右者拙者方二而一旦仮埋申付置候儀二付、檢使可差遣儀二御座候ハ、其段一応御掛合可被下儀と奉存候、尤相手他領之ものニ候得者、一件御奉行所江可差出心得二御座候得共、何等之手掛りも無之、拙者方一手ニ取計、江戸表江茂一応相届置候儀二付、御取計之趣承知仕度奉存候、否貴報被仰下候様仕度奉存候、右之段為可得貴意如斯御座候、以上

〔文政十一子〕

三月四日

石原清左衛門

水野遠江守様(信之、堺奉行)

〔朱書〕
「付札」

御書面之趣委細致承知候、右者、本文新七手疵請相果罷在候旨聞相聞候付、為及手当候上仕業人并一件之ものを追々召捕候得共、右之もの共之内ハ先荷担之趣ニ相聞、発頭之者共者行衛不相知、召捕候もの共依申立、新七疵所日數相立不申候内見分申付候ハ、吟味之手掛ニ可相成意味有之、不取敢見分之もの差遣候処、其砌以前(天津代官)ニ御向合檢使之上仮埋御申付有之儀相分候得共、元來新七儀、元御支配内人別之もの二者候得共、致出奔、帳外ニも相成候上者、當時有宿・無宿之程村方ニ而決し申聞敷儀ニ付、他之引合之簾□(堺奉行所)而當御役所江可訴出筈之儀与差心得、旁見分為致候儀ニ有之候、依之引続手代中呼出、御引合為及、且無宿之もの変死御向ニ而檢使有之候儀、兼而御心得方及御尋候次第ニ而、御向江御沙汰ニ不及取計詰候心得二者無之、畢竟此度之儀者、前書之通差掛候儀ニ付取計候儀ニ而、以後万一右躰之儀有之候共、及御懸合候上取計可申候、無宿もの異変御取計方之儀者、何れ共兼而御心得方御答可有之候、以上

(文政二年)
三月十八日

水野能登守(信之、堺奉行)

【30】

拙者御代官所泉州船松村地内行倒死一件御尋之趣御答并大坂町奉行戸塚備前守江御達之儀申上候書付(兼、忠榮)
(朱書)
〔上八〕

東叡山御領武州豊島郡仲台村百姓助左衛門弟余次郎儀、六歳ニ相成候悴官太郎同道ニ而拙者御代官所泉州大鳥郡船松

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

村地内ニ而行倒ニ相成候処、村役人共より拙者役所江可訴出儀ニ可有之処、直ニ堺奉行所江添翰を以差出相成候儀候哉、当時堺奉行明中ニ付大坂町奉行戸塚備前守懸(重)リニ而取扱候付、右官太郎身寄之もの江引渡可申間、条次郎身寄之もの戸塚備前守役所江可差出旨、御勘定奉行衆江御懸合ニ相成候処、右□変死之類、拙者(忠榮)々直ニ添翰いたし差出候元濟ニ而も有之候哉、評定所内右様之元濟相見不申候付、拙者方ニ而取扱ニ而も有之候哉否取調可申上旨承知仕候、然ル処前書武州仲台村条次郎儀、悴官太郎同道ニ而行倒居候場所ハ拙者御代官所地内ニ付、拙者役所江可訴出儀ニ候処、無其儀、且拙者方ハ堺奉行所江右様之儀ニ付添翰差出候元濟等も無御座候付、舩松村役人共呼出、右始末相糺候処、同村之儀ハ堺市中続之村方ニ候処、右村地内小栗街道筋字一里塚与申往還端ニ而堺奉行所御仕置もの取扱いたし候場所ニ、当七月廿三日前書条次郎儀、悴官太郎同道ニ而行倒罷在候付、村役人共相越、見届候処、病氣之趣ニ付早速医師相懸、服薬介抱いたし遣候処、追々快氣之趣ニ候得共、脚氣ニ而步行難相成候間、村継送ニ而仲台村江罷帰度旨相頼、往來手形差出候付、何之心付も無之、同月廿六日右之趣堺奉行所江訴出候処、本人召連可罷出旨申渡有之、条次郎召連罷出候処、一ト通糺之上、追而可及沙汰間本人召連罷帰候様申渡有之、召連罷帰、猶又服薬介抱いたし遣罷在候処、段々元氣相衰候様子ニ相見、同月廿九日急変相発、病死いたし候付、其段堺奉行所江相届候処、同所ハ檢使差遣、見分之上死骸ハ仮埋申付、悴官太郎儀ハ取調之上、追而及沙汰候迄村預ケ申付置候段申渡有之、猶又当八月二日村役人共呼出之上、条次郎死骸取片付申渡有之候段申立候付、前書行倒人有之場所ハ舩松村地内ニ付、早速支配役所江訴出、差図可請儀ニ候処、拙者役所を差越、直ニ堺奉行所江訴出候ハ如何之旨相糺候処、前書行倒人有之場所ハ前々ハ堺奉行所御仕置もの取扱有之場所ニ付、風与心得違仕、直ニ堺奉行所江訴出候儀ハ全村役人共不行届不調法仕候段恐入、不埒之旨吟味請候而者可申立様無之、以来之儀急度申合、心得違不取計等仕間敷候間、此度之儀ハ宥免有之度段、村役人共書付差出申候、前書行倒人有之候場所ハ拙者支配所舩松村地内ニ候処、村役人共心得違仕、直ニ堺奉行

所江訴出候儀ニ而、条次郎儀子細無之行倒死ニ付、拙者役所手限取計方与奉存、元済も御座候間、右一件拙者方江引渡有之、以来共支配所村内変死有之手限取計方被引渡・元済之趣区不相成様、戸塚備前守江御懸合被下候様仕度奉存候、依之舩松村役人共差出候書付忝通并天明元丑年御勘定奉行衆分京・大坂・奈良・堺奉行中江御懸合済之趣を以被引渡候書付写忝冊・其外変死人之儀ニ付取計伺書御下知済写・支配所内行倒死人有之節取計之儀ニ付「御」廻状写忝冊相添、此段申上候、以上

〔天保四〕

巳九月

石原清左衛門

(正修、大津代官)

〔曾我豊後守殿御付紙〕

(朱書) (助弼、公事方勘定奉行)

書面、舩松村役人共儀、村内ニ行倒人有之候ハ、早速支配役所江訴出、差図可請処、心得違直ニ堺奉行所江訴出候段不束ニ付、一同急度叱り置、右一条今般ハ大坂町奉行所ニ而取計も相済候儀ニ付、以来之儀ハ文化之度相達置候趣を以堺奉行江も通達有之候様大坂町奉行江相達候間、可被得其意候、以上

巳十一月

(天保四年)

〔右者、八月十三日評定所江留役松井助右衛門分呼出之処、同人外御用ニ付馬場金之丞分申談候者、東叡山御領武州

(朱書)

(左)

(評定所留役)

仲台村百姓助左衛門弟久米次郎儀、六才ニ相成候悴官太郎同道、清左衛門殿御代官所泉州舩松村地内ニ而行倒候処、

(石原正修、大津代官)

定而村役人共分当御役所江訴出候義ニ可有之処、直ニ堺奉行所江添翰を以差出相成候儀ニ存候処、当堺奉行明キ中

(東)

(忠孝)

ニ付大坂町奉行戸塚備前守掛リニ而取扱候付、右官太郎身寄之ものへ引渡可申間、備前守御役所江差出可申旨御勘

〔上方八ヶ国手限取計留〕(一)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

定奉行衆江掛合有之候処、右様変死之類、当方今直ニ添翰いたし差出候元濟ニ候哉、評定所内相尋候得共右様之元濟不相見候間、否取調可申答旨(マ)

一、村内見知候もの又者徘徊いたし候非人等行倒相果候節之取扱方、元濟可有之、其外往来手形も所持不致旅人体之もの行倒有之候節又者何国之もの共不相知節者、建札ニ而も相成候義与相心得候得共、取扱方元濟ニ而も有之哉、是又取調可申立旨(マ)

右之通談有之ニ付、前書之申上取調遣」

【31】

「捨子并火付・盜賊他支配・他領引合之もの居村江帰居、病死等いたし候節檢使遣方之儀、大坂三御代官江同西町奉行佐野備後守尋之趣答書書拔」

(朱書)
「答書之写、捨子之処ニ有之」

一、御料所村内二人殺・疵付・口論・其外異変ニ而他所之もの者引合計ニ候ハ、地頭江掛合、一件拙者共方ニ而吟味可仕候、且盜賊・火附等召捕候節、他領之ものニ而も無宿ニ而も、縦令他支配・私領等ニ引合者勿論、同類有之候共、拙者共方ニ而吟味可仕旨先達而申上候、右同類或者引合之もの等品ニ寄居村江罷帰居、或者病死等いたし候節檢使遣方如何取計候心得ニ候哉之旨御達之趣承知仕候

此儀、本文御書取ニ有之候、引合之もの等品ニ寄居村江帰居、或者病死等いたし候節与有之候者、吟味中帰村申付置候もの之儀(補入)ニ「御座」候哉、左候ハ、他之御代官所・私領之もの引合有之、呼出候上、吟味中帰村申付置

候もの病死仕候旨訴出候節、御咎等附不申分者届之趣承届、吟味書之内朱書ニ相認、御勘定奉行江申達候、御咎付可申与見込候もの病死仕候旨訴出候節者、其一件掛り御代官分手代差遣、病死致候もの之支配御代官手代又者領主・地頭役人為立会、死骸見分為仕候積相心得罷在候

〔天明二寅三月〕
〔朱書〕

【32】

〔公事方御届留〕
〔朱書〕

分郷江州浅井郡三河村抱非人番勘三郎儀、同国伊香郡雨森村百姓作兵衛弟留之助盗いたし候一件ニ引合有之、右一件於当御役所御吟味中ニ御座候処、前書勘三郎去月六日頃〔天津代官〕ハ痢病相煩、次第ニ差重り候旨、右村役人追々申出候付、其段当御役所江御届為申上置候処、同廿七日夜四ツ時頃病死仕候段申出候間、是亦村役人分為訴上候処、病死ニ無相違哉申合相糺、無紛候ハ、追而当御役所より御沙汰御座候迄寺院江仮埋ニ為致置候様村役人江可申渡旨御進〔訂正〕「通」達御座候付、申合之上為見届河内守家来磯貝太右衛門・若狭守家来森文治罷越、右死骸見届候処、病死ニ無紛、惣身疵所無之、外ニ怪敷義も相聞不申候付、死骸者仮埋申渡、別紙請証文取之、差出申候、依之此段申上候、以上

〔寛政十一年〕
〔朱書〕

稲葉丹後守内
〔正議、渡邊〕

未十一月八日

中津川森右衛門印

井上河内守内
〔正甫、浜松藩〕

小山忠大夫印

〔上方八ヶ国手限取計留〕(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

稻垣若狭守内

(先著、山上藩)

八木弥左衛門印

西郷斎宮内

(貞豐、旗本)

三崎八郎兵衛印

【33】

差上申一札之事

(朱書)

「公事方御届留」

御領分当村抱非人番勘三郎儀、同国雨森村百姓作兵衛弟留之助盗いたし候一件二引合有之、此節大津御役所御吟味中(代官)、二御座候処、去月六日頃合痢病相煩、次第二差重り候間、其段追々申上、大津御役所江御届申上置候処、同廿七日夜病死仕候付、是亦同様御訴申上候処、被仰合之上御役人中被成御越、私共為御立合勘三郎死骸御改御座候処、病死二無紛、惣身疵所等無之、外二怪敷儀相聞不申候付、追而被及御沙汰候迄同人死骸者寺院江仮埋二為致置候様、右者大津御役所合御達之上被仰渡之趣承知、奉畏候、仍之御請印形差上申所如件

西郷斎宮様御知行所

(貞豐、旗本)

江州浅井郡

三河村

庄屋

寛政十一年十一月七日

十右衛門印

年寄

久次郎印

稻垣若狭守様御領分

(定淳、山上藩)

同村

庄屋

又助印

年寄

丹十郎印

井上河内守様御領分

(正甫、浜松藩)

同村

庄屋

安左衛門印

年寄

市左衛門印

稲葉丹後守様御領分

(正義、淀藩)

同村

庄屋

奥次郎印

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

肝煎

八郎左衛門印

稻葉丹後守様御内

中津川森右衛門殿

井上河内守様御内

小山忠大夫殿

稲垣若狭守様御内

八木弥左衛門殿

西郷齋宮様御内

三崎八郎兵衛殿

【34】

〔天明林(前正)〕午年(正寿、堺奉行)贄安芸守(朱書)の達二付差出〕

(石原正範、大津代官)清左衛門支配所泉州村々ニ而変死(朱書、挿入)。行倒人等有之、手限ニ取計候分御心得ニ御承知被成「置」度候間、檢使差遣相濟候上、右之段村方(石原正範、大津代官)成共御届申上候様被成度旨御達之趣、清左衛門方江申遣候処、承知仕、以来変死・行倒人等有之候ハ、其時々村方(石原正範、大津代官)御届申上候様可仕候間、此段申上候様大津表(石原正範、大津代官)分申越候付、奉申上候、以上

石原清左衛門手代

(天明六年)
午五月

藤岡嘉平次印

〔宋書〕五月七日与力伊藤善左衛門江嘉平次之書面を以遣、(藤岡、大津代官手代)安芸守承知之旨返書來(實正寿、堺奉行)〕

〔35〕

公事出入・吟味物京・大坂奉行所江差出候節伺有無御尋之儀ニ付申上候書付(町)

〔宋書〕
〔公屈〕

拙者御代官所京・大坂近辺之村々ニ而公事出入・吟味物他領引合有之、手附「限」難相成、京・大坂奉行所江差出候節者、不及伺ニ差出候哉、又者差出之儀相伺候哉、是迄之仕來取調可申上旨承知仕候、拙者御代官所村方々他支配亦者私領江相懸り候諸出入ハ直ニ其所之奉行所江出訴いたし、人殺・疵付・口論・其外都而異変有之、他支配・私領亦もの仕業ニ候得者、先方江懸合、檢使差遣、見分吟味之上不相同、其所之奉行所へ差出、拙者一支配之ものニ而も吟味難渋いたし候節者、是亦右同様奉行所江直ニ差出申候、右者、天明二寅年被仰渡有之、上方御料所取計相改候後前書之通取計來申候、依之寅年被仰渡候御書付写相添、此段申上候、以上

〔宋書〕
〔文化七〕

午八月

(正通、大津代官)
石原庄三郎

〔宋書〕
〔36〕

〔上方八ヶ国手限取計留〕(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

(ママ) 手代差遣、見分為致候段者有之候得共、專其所之風聞を以自害・首縊・相對死・病死与極メ候趣ニ而、見分之見極メ候由者不相聞、畢竟自他之仕業を見極メ候ため之檢使ニ候上者、右檢使之もの見極メ第一ニ候処、其趣之文言無之伺書時々有之、不可然候間、以來変死・行倒死等之類訴出、見分之もの差出候ハ、自他之仕業得与見届候上、猶又其所之風聞等をも承り、其時宜ニ随ひ、見分之趣を以伺書取調可被差出候

(朱書)

〔寛政五丑年六月廿一日公事方〕

(勘定奉行)

〔37〕

(朱書)

〔江戸御用記〕

私御代官所撰州八部郡花熊村百姓彦兵衛養子弥左衛門并御林番非人松右衛門、右兩人共八月廿八日夜右村地内溜池江落入相果罷在、外怪敷風聞等無御座候付、弥左衛門死骸ハ取片付、松右衛門死骸者取捨之儀一同相願候付、願之通申渡、其段先達而御届申上候処、行倒非人与者訳も違ひ、右松右衛門御林番相勤候者之儀、死骸取捨与申義者有之間敷候間、得与相糺、書付を以可申上旨被仰渡候段、留守居手代々申越、承知仕候、右非人松右衛門義、村方ニ而御林番申付置候由ニ御座候得共、非人変死之節、子細無御座候ハ、死骸取捨申渡、其上ニ而御届可申上哉之旨、天明元_五年_五奉伺候処、伺之通御下知相濟候付、其趣を以一体之儀□相心得、取捨申渡候処、御林番も相勤候非人之儀ニ付取捨与申儀者手違之筋ニ御座候旨被仰渡候段承知仕候而者不行届義ニ奉存候間、先達而差出候御届書ハ御下ヶ被成下、右死骸取片付之積申渡、右御届書御引替被下候様仕度奉存候、依之此段申上候、以上

(朱書)
〔寛政七〕

卯十月

石原庄三郎
(正通、大津代官)

【38】

〔大坂町奉行江差出吟味物落着之趣達有之様、同西町奉行成瀬(正定)因幡守江差出候書取〕

〔上八〕
(朱書)

拙者御代官所・当分御預所撰河泉州村々諸出入・疵付・口論、都而手限二而難決、御奉行所江差出候吟味物之分、一件落着被仰付候節、江戸三奉行所御振合之通趣意・落着之趣一通り御達被成下度旨、天明五巳年青木楠五郎・大屋(紀明、大坂鈴木町南側代官)四郎兵衛(正巳、同谷町代官)分申上置、御承知被下候儀二付、右体支配所「村」内二異変有之、手代差出、見分之上二件御奉行所江差出候分茂同様之儀与奉存候間、以来落着被仰付候趣一卜通り御達御座候様仕度奉存候、依之楠五郎・四郎兵衛分申上置候書付写相添、此段申上置候、以上

〔寛政十二〕
(朱書)

申閏四月
石原庄三郎
(正通、大津代官)

〔右書取、申五月三日大坂出役牧野嘉兵衛持参、差出候処、承知被致候段、当番与力大須賀万三郎申聞ル〕
(大坂西町奉行所)

【39】

〔寺院住持変死手限取計候例〕
(朱書)

〔上方八ヶ国手限取計留〕(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

撰州天王寺村真法院住持智海縊死いたし候儀二付御届

〔公届〕
〔朱書〕

拙者御代官所撰州天王寺村小磯町一向宗真法院住持智海縊死いたし候段、当月十八日訴出候付、手代差遣、見分吟味仕候処、智海儀、〔文化二年〕〔朱書、訂正〕当戊四拾卅一七〔訂正〕歳相成、坊〔訂正〕「守」やな并幼少之子供三人有之候処、七八ヶ年以前分智海癩症二相成、寺役法用者押而相勤候得共、癩〔朱書、訂正〕「病」氣差発候節者不都合之儀有之候間、無油断療養為致、平生心付罷在候処、同日曉七時頃智海起候付、やな声懸ケ候処、便所江参り候趣相答立出、暫相立候而茂掃り不申候間、やな便所江参り見候得共居不申、不審二存、本堂・其外相尋候処、地中納屋之戸明有之候付内を見候処、梁木江白木綿下帯を懸ケ、首縊罷在候付驚人、早速隣家・村役人并旦那家・法中等江為相知、追々罷越、及見候処、最早絶命いたし、療養不相叶候付訴出候義二而、全癩症差発り、無訳義を存詰相果候儀二相違無之旨、やな・其外村役人共一同申之、惣身疵所無之、全自滅二無紛相見候旨手代見届、外怪敷儀も相聞不申候付、死骸土葬二取置可申旨申渡、且智海變死并右申渡之趣且中分真法院法中江申聞、本山西本願寺江可申達旨、是亦申渡候、依之御届申上候、以上

〔文化十二〕
〔朱書〕

戌正月

〔正通、大津代官〕
石原庄三郎

〔40〕

〔小堀中務方立会検使取計方向々〕
〔挿入〕
〔訂正〕
〔莊美、大坂鈴木町代官〕
「与」相触「振」候付岸本武太夫分相伺候趣、同人手附・手代分通し書

〔上八〕
〔朱書〕

以一紙致啓上候、向暑之節御座候処、各様弥御安全被成御勤仕、珍重奉存候、然者支配所内立会候使之儀二付小堀(正徳、京都代官)中務殿御取計方、外御一統之取計二齟齬いたし候儀も御座候間、先達而相伺候処、中務殿御取計向、兼而向々奉行所(上方)江茂御達被置候儀も有之、強而差支も無之候ハ、仕来之通相心得候様御達有之、御最寄之分江者右之趣武十郎(岸本莊美、大坂鈴木町代官)御達可申旨被仰渡候間、此段各様迄拙者共々可得貴意旨武十郎申付、如斯御座候、以上

岸本武十郎手代(莊美、大坂鈴木町代官)

五月廿二日(文政三年)

中村程四郎

大橋勇右衛門

同人手附

桑田矢内

石原庄三郎様御手代(正通、大津代官)

柴山泰蔵様

内堀繁太様

篠田牧太郎様

曾根源治郎様

辻甚太郎様御手代(守貞、五条代官)

奈良丈右衛門様

御同人様御手附

斉藤勝平様

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

木村宗右衛門様御手代

(勝澄、京都大仏前輪町代官)

伊藤百々助様

六島清左衛門様

(久建、宇治代官)

上林六郎様御手代

中根弥作様

追而、一紙御一覽之上御巡達被下、御留り之御方々御返却可被下候、以上

【41】

村送もの

〔村送病人大坂江継送取計方、大屋四郎兵衛方書留〕

(朱書)

(正巳、大坂谷町代官)

〔大坂三御代官取計留〕

(朱書)

長州長府金谷町常願寺弟子旭靜廻国ニ罷出候処、河州三日市宿々足痛ニ而同宿々宿送りいたし差出候処、天下茶屋迄者無滞継送、夫より今宮村々(朱書・訂正)「江」継送候処、右者送状ニ御地頭所江申上候与申文言無之候ニ付難請取、勿論大坂江送り候而も右文言無之候而者人足方ニ而請取不申例も有之候ニ付、取計方今宮・天下茶屋連名ニ而伺出候ニ付、右渡場所大坂之儀ニ付、当御役所ニ而下知いたし候而も大坂ニ而差支候時者如何ニ付、直ニ奉行所江罷出可然旨申聞、奥印いたし、西奉行所江差出候処、檢使被差出候上、右病人者可継送旨奉行所ニ而村方江申渡相濟候旨届出候事

(大坂西町)

(大坂谷町代官)

(大坂町)

但、以來共支配之内江送り候儀ニ候ハ、手限ニ而取計、大坂江繼送候節者奉行所江差出候積ニ候事

〔天明六〕
(朱書)

午閏十月晦日

【42】

〔公届〕
(朱書)

石原庄三郎御代官所撰州有馬郡下宅原村前後青山下野守様・九鬼和泉守様領分ニ候処、右領分村方にて者、村送病人

(忠裕、篠山藩)

(隆國、三田藩)

(訂正)

差急繼送之儀申立候節者夜中ニ而茂相互ニ繼送度候処、中ニ挟り候下宅原村にて者夜中請取不申、前後村々難難「洪」

(忠房、公事方勘定奉行)

ニ付、下野守様今夜中繼送之儀、先年道中御奉行石川左近將監様江御問合有之候処、病人差急之節者夜中繼立候而も

差支有之間敷哉之旨御答有之、依之和泉守様方ニ而も同様御取計有之度候得共、下宅原村ニ而夜中繼送之儀者不承知

之由ニ付、和泉守様役人取計方相伺候、右者夜中不請取義者前々村方之仕来迄ニ候哉、亦者大津御役所ニ而も如

(大坂町)

何相心得候哉、村方仕来而已ニ候ハ、御奉行所御手限ニ而御取計御座候得とも、庄三郎方ニ而茂下宅原村同様夜中不

繼送心得方歟、亦者元極ニ而茂有之候哉否取調可申上旨被仰渡候間、大津表江申遣、取調候処、夜中病人繼送之儀ニ

(文化二年)

付元極等無之、勿論夜中繼送いたし候共庄三郎方ニ而差支者無之候得共、去亥十月中右村送病人夜中繼立方之儀ニ付

御勘定所道中方御尋有之、其節下宅原村役人共呼出、相糺候処、三田村ニ繼来り候村送者道場河原亦者草ヶ部村江

繼送候処、夜中にて者先々村方請取不申由ニ而、両村ニ而請取不申、下宅原村江請取候得者、無抛同村ニ留置、翌朝

繼送候儀ニ而、左候而者右村壺村之迷惑ニ相成候間、右之訳合を以三田村江相答、暮時過候得者請取渡いたし不申候

由、下宅原村申立候、右之趣ニ而者、先々村方ニ而無滞請取、繼送さへ仕候ハ、下宅原村迷惑いたし候筋も無之候

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

間、夜中二而も無差支請取可申哉二奉存候、若夜中請取候様下宅原村江被仰渡茂御座候ハ、先々村方へも同様被仰渡被下候様仕度奉存候

右之趣可申上旨大津表分申越候、依之御勘定所江差出候書付写相添、此段申上候、以上

〔文化十三〕
(朱書) 〔正通 大津代官〕
石原庄三郎手代

子六月

牧野嘉兵衛

【43】

〔村送病人繼送刻限之儀二付〕
(朱書) 〔挿入〕
「大坂西町奉行」私領江之達書写「より」
(挿入)

〔上八〕
(朱書)

村送病人夜中繼送候儀、病人望二候迎夜中二而茂繼送不苦事二相成候而者、留置候を難儀二存、万一人江申勸、押而望之趣に取計候村方出来申間敷与茂難申、且病人之内二者婦村差急、夜中二候而茂繼送り相望候もの茂可有之哉二候得とも、駕籠二候而も夜中旅行之儀者疲二茂可相成事ゆへ、仮令当人望候而も夜中者不繼送、途中も万端心付召連可然筋二付、其心得を以次村江之里数等考合、勘弁之上、大低日暮迄之内二必定次村江引渡可相成程之時刻二候ハ、送遣、若夜二人可申哉難計節者見合、翌朝二至繼立候方二可有之、尤他之村方より夜中二繼越候与も繼戻候儀者不致、請取置、送越方及深更二難心得次第茂有之候ハ、請取方分送越候村方江別段及懸合可然筋与存候事

〔右者、文化十三子十二月廿八日大坂出役牧野嘉兵衛、西地方分呼出有之、勝部政次郎・田坂大五郎分爲心得相達〕
(朱書) 〔大津代官手代〕 〔大坂西町奉行所〕 〔同与力〕 〔同〕

※第二章以下は「上方八ヶ国手限取計留」(三)に続く。

【付記】 本稿を作成するにあたり、史料の閲覧・掲載につきまして、京都大学大学院文学研究科日本史学専修の吉川真司先生・三宅正浩先生、および同研究科図書館のみなさまには、まことにお世話になりました。心よりお礼申し上げます。

なお、本研究は、JSPS科研費JP一九K〇一二五六、JP二二H〇〇六五九、JP二〇K〇〇九六八の助成を受けたものです。また、本研究は、二〇二〇年度関西大学学術研究員として研究費を受け、その成果を公表するものです。

「上方八ヶ国手限取計留」(二)

——江戸中後期の上方・大津代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)